

社会科学学習指導案

生徒 第1学年A組 男子20名 女子20名 計40名
指導者 教諭 阿部 智子

I 単元名 世界の様々な地域『アフリカの人々の暮らしとその変化』

II 単元について

平成20年度告示学習指導要領において地理的分野は大幅に改変され、世界と日本の諸地域の地域的特色について学ぶ地誌的な学習が充実されている。これにともないこれまで扱っていなかった地域についても取り上げられるようになった。本単元のアフリカもその一つである。世界の国の約3割（53カ国）をしめるアフリカはその歴史的背景と民族の対立から長く紛争が続いてきた。一方でワールドカップサッカー南アフリカ大会開催に象徴されるように近年めざましい経済発展を遂げている地域でもある。アフリカは日本から遠い国であり、中学1年生にとって身近な国とはいえない。しかし、産業面でのアフリカと日本の関わりは深いものがある。そこで、日本との関りという視点からアフリカをとらえさせ、“アフリカの人々の生活に日本はどのような関わりをもっているのか”という問いのもと「アフリカの変化」を主題とし、アフリカの地域的特色をとらえさせたい。

III 単元の指導目標

- (1) アフリカと日本の関わりを視点にアフリカの生活変化について多面的・多角的に考察させ、適切に表現させる。 【思考・判断・表現】
- (2) アフリカに関する情報を地図や統計資料等から適切に選択させ、必要な情報を読み取らせる。 【技能】

IV 本単元における言語活動

地図や統計資料等から必要な情報を読み取り、まとめる。《収集・整理》

事象から関連性を考察し、その結果を文章で表現する。《解釈・説明》

アフリカの抱える課題と日本の関わりについて資料をもとに話し合い、考察を深める。《討論・協同》

V 単元の評価基準

社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能
アフリカと日本の関わりを経済面などから多面的・多角的にとらえ、日本との関わりがアフリカにどのような影響と変化を与えているのか考察し、適切に表現している。	アフリカの地域的特色について地図、統計資料、参考文献等から適切に資料を選択し、読み取ったり図表等にまとめたりしている。

VI 指導と評価の計画（6時間扱い・・・本時5/6）

最終課題 「アフリカの人々の生活に日本はどのような関わりをもっているのだろう。」

題材	指導目標	主な学習活動	時数	【言語活動系統表】 との関連
「アフリカをながめて」	① アフリカの地域的特色に関する関心を高め、歴史や現状の課題について意欲的に追求しようとする態度を育てる。 ② アフリカの農業や鉱山資源の豊富さと、貧困や経済格差の問題のかかわりについて考察させ、自分たちの生活との関連性について気づかせる。 ③ アフリカの経済に日本の企業が関わったり、ODAを行ったりすることでアフリカにどのような変化をもたらしたのか多面的・多角的に考察させる。 ④ 統計資料や図表、地図を利用して、アフリカの特徴や世界との関わりを読み取ることができるようさせる。 ⑤ アフリカの地域的特色を理解させる。	アフリカ州を構成する主な国々の位置と自然について理解する。	1	【収集・整理】
「アフリカの歩みと多様な民族」		アフリカの歴史と現在抱える課題について理解する。	1	【解釈・説明】
「伝統的な農村のいま」		アフリカの農業を視点として自然環境との関わりや、アフリカの貿易の特徴について理解する。	1	【解釈・説明】
「モノカルチャー経済と暮らし」 「甘いチョコレートの苦い現実」 「アフリカの特色をまとめよう」		農産物、鉱山資源とモノカルチャー経済の特徴と課題を理解する。 ----- モノカルチャー経済と日本の関わり、ODA等の開発援助と日本の関わりについて資料を基に調べ発表する。 ----- 日本との関わりがどのようにアフリカの生活に変化をもたらしたのか考察しアフリカの地域的特色を把握する。	3	【解釈・説明】 【討論・協同】

観点	指導目標	評価方法	Aのキーワード・具体例	評価規準	Cへの手立て
関心・意欲・態度	①	活動観察 ワークシート 記述	アフリカの地域的特色に対する関心を高め <u>日本の身近な生活や世界とのかかわり</u> をとらえようとする。	アフリカの地域的特色に対する関心を高め、日本とのかかわりをとらえようとする。	自分の生活体験や映像資料を利用させる。
思考力・判断力・表現力	② ③	ワークシート 記述	アフリカの人々の生活について産業・ODA等の日本との関わり <u>の良い点・改善点</u> について多角的・多面的に考察している。	アフリカの人々の生活について日本との関わりがもたらした変化という視点から考察している。	既習事項をふりかえる。躓いている箇所を把握し個別に支援する。
技能	④	ワークシート	<u>複数の資料</u> を使い、多角的・多面的にアフリカをとらえることができる。	資料から日本とアフリカの関わりについて読み取ることができる。	統計資料の読み取り方について整理する。
知識・理解	⑤	小テスト（筆記）	アフリカの歴史と自然環境などを理解し、その産業の特徴について <u>複数の視点</u> から整理している	アフリカの歴史と自然環境、主な産業と現在の課題について理解している。	知識・理解整理用のワークシートを活用。

Ⅶ 生徒の実態について

社会科への関心は比較的高く、課題に対して積極的に考察し、自分の考えを発表することができる。しかし、資料から読み取ったことを根拠にして論理的に記述力は不十分である。事前アンケートによると、アフリカのイメージとしてあげたものは「動物」「自然」「黒人」が大半で他に「難民」「貧しい」という言葉にとどまっている。アフリカ州に含まれる国名を3つ以上正確にあげることができた生徒は23名いたが、サハラ以南のアフリカの国名をあげることができた生徒は4人であった。生徒の持つアフリカのイメージはテレビ番組などで見る自然豊かなアフリカという点にとどまっていることがわかる。

Ⅷ 本時案

- 1 題材 「アフリカの特色をまとめよう」
- 2 学習目標

アフリカの経済に日本の企業が関わったり、ODAを行ったりすることでアフリカにどのような変化をもたらしたのか多面的・多角的に考察させる。

【社会的な思考力・判断力・表現力】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と（評価方法）
<p>前時</p> <p>○日本とアフリカの関わりについて調査し、関わりの様子について発表する。</p>	<p>○資料をもとにどのような関わりがあるのか調査させる。</p>	<p>○資料から日本とアフリカの関わりについて読み取ることができる。【技能】（ワークシート）</p>
<p>本時</p> <p>○課題を把握する</p>	<p>○課題と目標を提示し、学習過程を確認させる。</p>	
<p>アフリカの人々の生活に日本はどのような関わりをもっているのだろう。</p>		
<p>○前時までの発表をもとに課題に対する個人の考察をワークシートに記入する。</p> <p>○日本との関わりがアフリカにどのような変化をもたらしたのかグループで討論し、発表する。</p> <p>○グループ討議をもとに課題に対する個人の考察を再度ワークシートに記入する。</p> <p>○日本と同様の関わりを世界各国が行っていることを知る。</p> <p>○これから日本がどのようにアフリカと関わっていくべきか自分の意見を持つ。</p>	<p>○前時までの学習をもとにアフリカに対する日本の関わりとそれらがもたらした変化について考察させ文章表現させる。</p> <p>○良い変化、悪い変化にわけて考察させる。</p> <p>◆一つの関わりが良い変化にも悪い変化にもなり得ることに気づかせる。</p> <p>○多面的・多角的な考察になるように二つ以上の視点からまとめるようにさせる。</p> <p>○アメリカ、ヨーロッパの例をあげ、アフリカが今後大きな市場として期待されている事を理解させる。</p> <p>○これまでの学習を踏まえた、自分なりの考察を表現させる。</p>	<p>○前時までの学習を基にアフリカの変化について考察し、適切に表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】（ワークシート）</p> <p>○他の人の考えを取り入れながら、自分の考えを修正している。【思考・判断・表現】（ワークシート）</p>

Base of the Economic Pyramid